

2013年度プレイリーダー講習会報告

日時 平成 25 年 11 月 30 日 (土)、12 月 1 日 (日) 2 日間

場所 もとまち地域センター、国分寺市プレイステーション、史跡公園

主催 国分寺市教育委員会

実施 国分寺市プレイステーション指定管理者「NPO 法人冒険遊び場の会」

スケジュール

11月30日	内容	場所
9:00 受付開始		もとまち地域センター 体育館 和室・集会室
9:30 開始	オリエンテーション	
10:00	子どもの気持ちを伝えよう！身体で言葉で音楽で その1 「子どもの頃の私」と「今の子どもたち」	
12:00	昼食	
12:45	子どもの気持ちを伝えよう！身体で言葉で音楽で その2 キーワードをつくり、表現方法を考える	もとまち地域センター 体育館
15:00	子どもたちの気持ちを表現する その3 発表会	
16:00	感想・まとめ	
16:30	交流会	もとまち地域センター集会室
17:30	終了	
(18:00~20:00)	自主事業・交流会 第2部 (自由参加)	もとまち地域センター集会室

12月1日	内容	場所
9:30	竹に親しみ竹を利用する 竹の性質について 道具について 竹の枝打ち、竹細工、竹を使ったおやつづくり	プレイステーション
	昼食	
14:00	冒険とチャレンジを可能にする遊び・遊び場のリスク管理と工夫 怪我の事例から考える	もとまち地域センター
16:00	2日間のまとめ 感想	
16:30	修了証授与 あいさつ他	
17:00	終了	

1. 子どもの気持ちを伝えよう！「身体で 言葉で 音楽で」

・子どもの頃を思い出す

子どもたちの気持ちを理解するためには、子どもたちの置かれている状況を自分のこととして感じられる「共感する力」が必要と思われる。参加者がグループに分かれ、自分の子どもの頃を思い出し、それを語り合うことで子どもへの共感の入り口とした。

・子どもたちの本音・気持ち

次に、子どもたちと日常接している経験から、子どもたちは本当にいきいきと暮らしているのか考え、子どもたちが言いにくい本音を、みんなで引き出していった。

・寸劇や音楽などで表現

親にコントロールされ、管理されている子どもの様子を手足にひもをつけて表現したり、大人の思いで塾や習い事などたくさんのサプリメントを飲まされて、いっぱいいっぱいになってしまう子ども、また、ポーっとしたりグダグダしたいだけなのに、それをさせてくれない大人、ただ遊びたかっただけなのにスポーツも訓練や学習にしてしまう大人の様子が表現され、参加者の中には涙する人もあった。

2. 子どもも大人も楽しめる生活遊び「竹に親しみ遊び尽くそう！」

竹は、国分寺ではまだ竹林として残っていたり、農家の庭先などでも見かける身近な存在だが、それを有効に利用したり遊んだりする機会は少ない。子どもたちに、竹の性質やその利用方法などを伝えていきたいと考え企画した。竹の枝打ちや竹割りなどの実習を行い、グループに別れて竹の器やはし等道具の他、遊具などを作り、竹を利用して様々な蒸しケーキを作って楽しんだ。

3. 冒険とチャレンジを可能にするための遊び場での安全管理

今回は竹細工の活動を思い出しながら、注意すべき点を話し合い、
・道具の使い方、考え方
・素材としての注意点
・準備の仕方
・子どもの動きの予想
・大人の配置等について話し合った。また、道具の使い方について概略をまとめたパンフレットなども配布した。次に冒険遊び場の会の事故事例をあげて、どのようなけがが実際に起こりうるか考えた。

4. 参加者の交流

自己紹介も含めて、講習会に参加した動機や普段の悩みなどを話し合う時間を設けた。

5. 成果

1, 大人が子どもの気持ちに気づくと言うことが如何に難しいか、また、気持ちに何となく気づいたとしても、それを言語化しない限り、伝わっていかないことを改めて痛感した。今回、子どもたちの気持ちを必死になって考え、それを言葉にしていくこと、さらに表現していくことで、より子どもたちの気持ちに肉薄できたと思う。子どもの気持ちを表すポイントとして伝えていきたい。

2, 竹を使い尽くした遊びを体験することで、改めて竹の持つ力、素材としての魅力、多様な利用の仕方を知ってもらうことができた。各地で利用が広がることを期待したい。

3, 竹で遊ぶ活動を素材にしながら安全管理の実際について学ぶことができた。また実際の事故事例を紹介することでより綿密な安全管理が必要であることを再認識してもらえた。